

## “桜の名残り” みんなで満喫！ — 2013 花見の宴 華やかに開催 —

当協会の恒例行事「お花見会」が4月7日（日）奈良公園で開催されました。桜の見ごろは気まぐれ。昨年の反省から少し遅めの時期に設定したところ、ソメイヨシノはかなり散ってしまい、今年もハズレかと心配していたところ、懇親会場のシルクロード交流館の周辺には、“八重の桜”が沢山あり、前日からの風雨にもかかわらず美しい姿を見せてくれました。



会場は1988年に開催された「なら・シルクロード博覧会」の際に“奈良公園館”として建てられたもので、現在はレストラン“クイーンアリス”と、ゆかりの品の展示場になっています。このイベントがきっかけで奈良日仏協会が誕生したというご縁もあります。

11時15分に新公会堂前に集合した参加者は、まず公会堂庭園の奥に咲きほころぶ八重桜を鑑賞。緑の中に濃いピンク色が映える「紅豊」と、華やかな「八重紅枝垂れ」の美しさを堪能しました。次いで園路沿いに咲くシャガ、アセビ、ヤブツバキなどを愛でながら散策し懇親会場へ向かいます。その周辺にもまた八重桜が沢山！ その名もゆかし「奈良の九重桜」や、花の色が真っ白な「白妙」なども満開で、時おり雲間から差し込む光に映えてそれぞれの華やかさを誇るようでした。



次に我々はレストラン中央部のホールを占拠し、4～6人掛けのテーブルに着席しました。食事はまずオードブルとメインディッシュが席に運ばれ、サラダ、デザートなどはビュッフェ形式。後者は個室風のコーナーで食事する一般客と共用です。持ち込みワインもお代わり自由。

いよいよ当日のハイライト、ソプラノ歌手・岡田由美子さんの歌唱です[写真⇒]。(電子)ピアノ伴奏は北口裕子さん。「さくら・さくら」に始まり、蝶々夫人のアリア「ある晴れた日に」や、「恋は水色」など馴染みのある曲目を次々に披露していただきました。高い天井のホールに張りのある美声が響きわたり、参加者だけでなく居合わせたレストランのお客さんたちも歌声を楽しまれたこととでしょう。キモノの生地を再構成したドレスも見事に桜の宴とマッチしていました。

終りは奈良日仏協会の理事全員がステージに上がり、滝廉太郎作曲の「花」を参加者全員で合唱してお開きとなりました。今年のお花見会は前夜からの春の嵐もなんとかおさまり、満開の八重桜と花吹雪の舞う中、素晴らしい雰囲気を楽しめました。参加者の数は40名余り。御協力をいただいた関係者の皆様、ほんとうに有難うございました。（事務局）



＜催事の関連記事＞ ◆シネクラブ例会(4/28) ⇒P.4 ◆ジャメ副会長の仏訳本出版 ⇒P.6  
◆会員主催各種講座表 ⇒P. 7 ◆フランスアラカルト(5/16) ⇒P.8

名句の花束 フランス文学の庭から <26> 三野博司

L'essentiel est invisible pour les yeux.  
いちばん大切なものは目に見えないんだ。  
(サン=テグジュペリ 『星の王子さま』 1943)

(副会長・奈良女子大学教授)



今年は『星の王子さま』出版 70 周年となります。すでにあちこちに書きましたが、まずはその出版にいたる経緯をかたんに紹介します。

第二次大戦が始まるとサン=テグジュペリはアメリカに亡命することになります。船でニューヨークに到着したのは 1940 年 12 月 31 日の大晦日です。滞在はこのあと二年以上に及びましたが、アメリカ嫌いのサン=テグジュペリにとっては、ニューヨークでの生活は不満の多いものでした。そんな状況で、1942 夏『星の王子さま』の執筆が開始されました。それまで彼は、手紙や本の献辞を記したページ、数式の間、レストランのテーブルクロスに、王子さまとおぼしき少年の絵をいたずら書きのように描いていました。友人の編集者たちは、その少年を主人公にして「子ども向けの本」を書けば、サン=テグジュペリの気も紛れるのではないかと思って執筆を提案したのです。こうして 1943 年 4 月 6 日、ニューヨークのレイナル&ヒッチコック社から『星の王子さま』が刊行されることになりました。ただし、この日に出たのはキャサリン・ウッドによる英訳本で、フランス語版も時をおかずに売り出されたのですが、こちらは正確な日付はわかっていません。

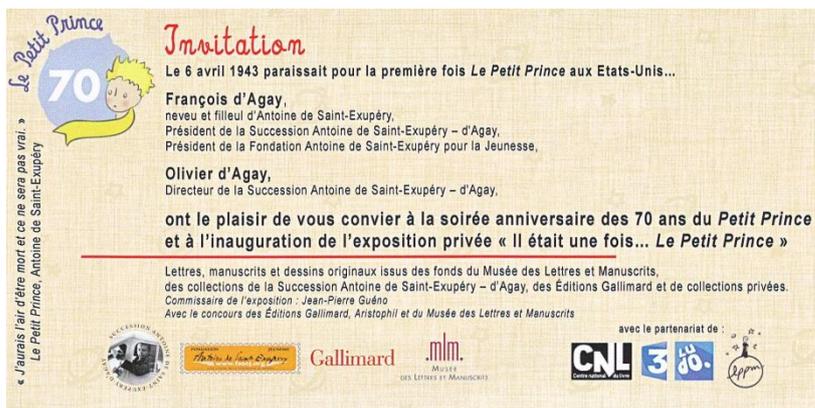
サン=テグジュペリは、1929 年の『南方郵便機』を皮切りに、以後 1931 年『夜間飛行』、1939 年『人間の大地』を、それぞれガリマール社から刊行しました。実は 1929 年、彼は将来にわたる作品はすべて同社から出版するという契約を結んでいたのです。ところが第二次大戦勃発後、アメリカに渡った彼は、『戦う操縦士』と『星の王子さま』をレイナル&ヒッチコック社から刊行し、このときその著作権をこのアメリカの出版社に与えてしまいます。そのため、戦後になってガリマール社とのあいだに著作権をめぐる訴訟がもちあがりました。このもめごとを調停する役を果たしたのが、カミュでした。戦後ガリマール社の人気作家となったカミュは、1946 年アメリカに講演旅行に招待されます。このとき彼は、ガリマール家の友人たちから著作権問題を解決するための任務もまた託されていたのです。

現在のフランス語版を出版しているのはガリマール社ですが、この初版は、第二次大戦が終わってからのことであり、1946 年 4 月のことです。2006 年は、フランスでの刊行から 60 周年ということで、数々の催しものや出版の企画があいつぎました。今年の 70 周年は、アメリカでの出版を記念する年ということですが、それでも初版の記念ということで、フランスでもお祝いの行事が開催されます。

ちょうど私のところに、サン=テグジュペリの子孫であるオリビエ・ダゲ氏が代表を務める「サン=テグジュペリ権利継承者事務所」から封書がとどきました。『星の王子さま』刊行 70 周年を記念する行事への招待状です。4 月 9 日 20 時からカクテルおよび夕食パーティ、10 日には展覧会、11 日には、スジリエ、ラクロワ、タナズといったおなじみのメンバーによるシンポジウム。3 日間にわたる催しです。残念ながら、新学期早々にパリへ飛ぶこともできず、この招待に対しては欠席の返事を、ダゲおよびラクロワ宛てにメールで出すことになりました。この祝祭の様子については、いずれ『星の王子さま』公式HPに紹介されるでしょうから、それを待ちたいと思います。

日本でも 4 月末に河出書房新社が『星の王子さまとサン=テグジュペリ』と題した 170 頁ほどの本を出版します。私を含む 10 数名の執筆陣が、さまざまな角度から『星の王子さま』とその作者について、新たな光をあてる予定です。ちなみに拙稿のタイトルは「飛ぶ男と住む女ーサン=テグジュペリの世界」で、12 頁のエッセイです。(以下次号)

ダゲ氏から届いた招待状⇒



## 幕末・フランス・桜

幕末とフランスと桜。こう並べると、この3つの言葉は、関連性を持たないように見える。実は意外に、そうでもない。その時代は、絶対年代で言えば19世紀であり、グローバリゼーションが本格化する時期である。1858年に通商条約がアメリカ、イギリス、フランスはじめ欧米諸国との間に締結され、外国の人と文物が、盛んに往来するようになった。

もっともこの当時、極東の島国に、直接の圧力を及ぼすことができるほどの国力、つまり軍事力と経済力を持っていたのは、イギリスとフランスだけである。したがって外交史の局面で、重要視され、具体的に検討されているのは、日英関係と日仏関係である。

外国側から見れば出先の日本で、本国政府を代表して活動したのは、イギリス公使パークスと、フランス公使ロッシュであった。ちなみに、ロッシュは1830年代からおよそ30年間、アルジェリアをはじめとする北アフリカの地で、軍人、のちに外交官として活躍していた。いわば、「アラビアのロレンス」フランス版である。そのロッシュとパークスは、むろん張り合っている間柄で、仲が悪い。ただし、日本に対抗する必要上、外国公使団として連携する必要があるときには、がちりスクラムを組んだが、リーダーの立場にある



鴨川三条大橋西詰め堤の桜

青山 忠正

のは、やはりイギリスである。それが面白くないロッシュは、徳川慶喜が15代将軍を継いだ1867年になると、徳川幕府に接近し、慶喜と単独会見し、側近の老中板倉勝静とも会見して、近代流の閣僚制度をレクチャーするなど、幕府を応援する姿勢を示した。フランス本国政府は、こうしたロッシュの姿勢を、むしろ危険と見て、日本の内政に不介入の方針を採るパークスに追随するように、との指示を与えたのだが、ロッシュもすぐには従わなかった。その間には、フランス陸軍から幕府に軍事顧問団まで派遣されている。

そのうち、1867年末になると、「王政復古」の政変が起きて将軍徳川慶喜はあつという間に、「朝敵」に転落してしまった。このときでも、ロッシュは、ひそかに慶喜を応援しようとしたらしいが、結局のところ、5月には日本公使を罷免され、本国に送還されてしまうのである。パークスにしてみれば、してやったりというところだろう。

桜の話題だけが取り残されてしまった。はたして「幕末」と関係があるのか。それがちゃんとあるのだ。現在、私たちが日本国中で見かける桜の品種は、ソメイヨシノである。桜自体は古代からあるが、それは主に山桜で、ソメイヨシノは、1840年代頃に、江戸の染井という町の植木職人が開発した新品種である。人間のライフサイクルに似て、苗木から20年ほどで一人前の花を咲かせ、70年くらいで一生を終える。ところが、この品種は、種子から育ちにくく、株分けで繁殖した。いわゆるクローンであり、21世紀初頭の現在、そろそろ種としての寿命が尽きるといわれる。日本の春を永遠に象徴するかに見える桜も、実は19世紀後半から20世紀に固有の、「近代」の花なのである。（佛教大学歴史学部教授、会員）

### <<新規連載記事について>>

本誌の記事の大半は会員の皆様の寄稿によって成り立っておりますが、公務などでご多忙の方にはじっくりと随想をモノされることの困難な場合も多いと存じます。そこで編集部より出向いてお会いし「過去にあった特筆すべき思い出」などをインタビューしてレポートするのにも一興かと考えます。

▼次号では一番バッターに坂本会長を指名させ

ていただき、坂本さんの「フランス(語)との出会いやその後の活躍について伺ってまいりたいと存じます。以下はその一端です:

◀1971年7月の或る日31歳の田舎者が初の海外旅行、フランスへ旅立った。AF・275 便の定員はたった124人。今とは大違いで機内サービスは格段によく乗務員とも仏語で会話練習ができました。なんと操縦席まで見学できたのです……

第30回 奈良日仏協会シネクラブ例会の案内

日時	4月28日(日) 13:30~17:00
会場	奈良市西部公民館(近鉄学園前駅南)4階第2会議室
プログラム	『太陽がいっぱい』(Plein soleil, 1960年, 118分)
監督	ルネ・クレマン
参加費	日仏協会会員 無料 非会員 300円
懇親会	例会終了後「味楽座」にて
問い合わせ	浅井直子 Nasai206@gmail.com tel. 0743-74-0371

◆次回例会は、当協会元理事で現在「奈良シネクラブ」代表の檜原恒一郎さんのご好意により、無事開催できる運びとなりました。プログラムは、「フレンチ・サスペンス」特集第2回目、『太陽がいっぱい』です。前回の『華麗なるアリバイ』の原作は、英国のアガサ・クリスティーの名探偵ポワロ・シリーズでした。今回は、米国のパトリシア・ハイスミスの人気作品「才能あるトム・リプリー」(The talented Mr. Ripley)が、原作です。



◆この映画はすでに観たことがある、という方も多いのではないのでしょうか。それほど映画史上において名高い作品です。シネクラブは様々な意見の交換を通じて、自分では気づかなかったことを知る機会でもあります。例会では、これまでこの映画について語られてきた批評を簡単に紹介しながら、その魅力をあらためて考えてみたいと思います。俳優アラン・ドロンの圧倒的な存在感、アンリ・ドカエの見事なカメラワーク、ニーノ・ロータの哀愁を誘うメロディ、ルネ・クレマンとポール・ジェゴフの巧みな脚本、そのすべてが一体となって、この作品は独特の輝きを放っています。フラ・アンジェリコの絵画作品、青い波に揺さぶられる白いヨット、ナポリ近くの鄙びた小さな港町の風情、背景の海に幻のように現われる帆船、そうした細部の描写も不思議な魅力を添えています。

◆前回は「犯人探し」がサスペンスの核心を成していましたが、今回は誰が犯人か早くから観客の目にそれとわかるように示されています。では一体なぜ、公開後50年以上を経た今日でも、何度も見てドラマの筋書きはわかっている、この作品は見る者の心臓をドキドキさせるのでしょうか。ラスト近くの場面で、主人公の青年が小声でつぶやく「meilleur, meilleur ...」の言葉は、どのように響くのでしょうか。そんなことをシネクラブで一緒に考えてみませんか。



「花の詩歌」

長福 加津美

はじめまして。昨年の秋、奈良県立美術館での美術鑑賞会「絹谷幸二展」に参加したのをきっかけに、奈良

日仏協会へ入会させていただきました。これまでフランスとの縁はあまりありませんでしたが、昔から趣味で詩を少しずつ書いてきました。とくに花の詩歌が好きです。フランス文学を少し知り、程遠いけれど、書くのが私の一部のように、文学を楽しんでまいりたいと思います。娘も息子も独立し、私も自由な時間をもてるようになり、みなさま方と御一緒させて頂けることが嬉しいです。(会員)

ボケの花  
ボケの花が咲いている  
刺があっても表わさず  
挫けず真っ直ぐ咲いている  
ボケだなど通り過ぎる人  
私はボケの花が良い  
なんて明るい桃色でしょう  
ぎっしり花を束にして  
下に低く咲いている  
やさしい色で手を繋ぐ  
春を喜んで空を見る  
私はボケの花でいたい

ボケはバラ科の低木で木瓜と書き呉音 [mu-gua] 又は漢音 [bo-kua] からの転化といわれる(編集部)

## ヴィシーへ語学留学—マリーと過ごした二週間

佐々木 幸代

二月に約2週間、ヴィシーのカヴィラム (Cavilam)\* に語学留学をした。目的地のクレルモン・フェラン空港に到着し、荷物が出てくるのを待っていると、Sachiyo? と声をかけられ、今回ホームステイでお世話になるマダムだとわかった。彼女はこやかで若々しく、ここから家まで45分よ、疲れたでしょう? と話し始め、車に乗り込んだが、実際に疲れもあり、私はマダムのフランス語も十分に理解出来なかった。ステイ先に着き、ここがあなたの部屋よ、と荷物を置き、すぐに温かいお茶でも飲むかと聞かれ、一緒にハーブティーを飲んでおしゃべりした。漸くベッドに入ったのは、夜中の2時頃だった。



「カヴィラムの教室にて先生と」



「リビングで寛ぐマリー」

翌朝は7時に上の階のマダムの所へ上がっていき、初めて一緒に朝食を頂き、慌ただしく歩いて5分の所にある学校へ急いだ。午前のクラスはB1で、午後のクラスはB2になった。学校での勉強は、特に真新しい感覚を持たなかったが、クラスが難しすぎた為、2週目にはB1のクラスに変更された。(\*CavilamはVichyにある公立の外国人向けフランス語学校)

私が今回の留学で印象に残ったのは、ステイ先のマダム、マリーである。彼女は子供2人を引き取り離婚し、在宅で働きながら子供を育て、子供が独立した今でも、日中は家でパソコンで仕事をしており、それと並行して留学生を受け入れている。59歳と言えどバリバリのキャリアウーマンで、そのアクティブさと強さに圧倒された。

一度、私の部屋のシャワーが故障している為、マリーのシャワーを借りようと、夕方上に上がっていくと、ソファで横になっていてテレビもついてた。一瞬ためらったが、マリー、シャワー貸してね、と言ったとたん、休んでいたところを起こされた事に酷く腹が立ったらしく、Respectez!! とこっ酷く怒られた。そして、マリーがここ数日毎晩3時や4時に目が覚めて眠れない、と朝食の時にもらっていたので、週末はゆっくり家で過ごすのかと思いきや、土曜は雪の中をクレルモン・フェランに電車で私を観光に連れて行き、日曜は家の近所に映画を観に行った。

毎日の晩ご飯の用意もそれは見事で、同じ主婦として非常に興味深かった。冷蔵庫の中を見せ、貴方もこんな風にきちんと冷蔵庫の中は整理しないと駄目よ、と言い、料理も仕事をしながらオーブンで調理したり、肉の塊に火を通したり、その傍らで真空パックにして冷凍しておいたラトウイユを、フランス風の蒸し器で解凍して温めたり、と長年やってきているのだろう、本当に無駄が無かった。マリーのおかげで、帰国してから楽しんでフランスの家庭料理を中心に作っている。

最後の夜に、ゆっくりとマリーと話をする時間を持てた時、彼女から、Sachiyo はたった2週間だったけどこのステイをどう感じたか、問われた。私は即座に、マリー、貴方を見ていてフランス女性のしなやかさと強さを感じたわ、と答えた。そして彼女が最後に言った言葉が、忘れられない。(会員)

« *Fatigue, ça n'existe pas dans le dictionnaire.* »

## ジャメ副会長の“漱石”仏訳本 出版の運びに

## &lt;&lt; お知らせ &gt;&gt;

このたび、オリヴィエ・ジャメ先生仏訳・注解による夏目漱石の講演集が、フランスのエルマン社より出版されました。所収は以下の6講演です。

- 1) Les fondements philosophiques des Belles-Lettres 「文芸の哲学的基礎」(1907, 東京美術学校にて)
- 2) Divertissements et métiers 「道楽と職業」(1911, 明石にて)
- 3) La civilisation moderne japonaise 「現代日本の開化」(1911, 和歌山にて)
- 4) Matière et forme 「中味と形式」(1911, 堺にて)
- 5) Belles-Lettres et Éthique 「文芸と道徳」(1911, 大阪にて)
- 6) Ma conception de l'individualisme 「私の個人主義」(1914, 学習院にて)

漱石というと、『吾輩は猫である』や『坊ちゃん』などの小説で知られていますが、講演はまだ読んでいないという方が存外多いかもしれません。これを機にまずは日本語で、そして意欲ある方はジャメ先生のフランス語訳と対照しながら、読んでみませんか? (⇒次ページへ)

(前ページから)

小説とは一味違いますが、漱石の文学のあり方がより明瞭に表わされているようです。

注文はアマゾン・フランス (amazon.fr) から。

*Natsume Sôseki : Conférences sur le Japon de l'ère Meiji (1907-1914)*, Conférences présentées, traduites et annotées par Olivier Jamet, Hermann Éditeurs, 2013

## ◆◇◆◆◇◆◇◆◇◆◆◇◆◇◆◇

### ——源氏物語トレッキングの勧め——

日本はもちろん世界においても最高級の文学作品といわれて久しい源氏物語ですが長さや難解さのためか読む人の数は非常に少ないことが指摘されてきました。しかし特に外国との言語・文化交流にかかわる人々にとって過去の日本人が残してくれた優れた芸術作品「源氏」を外国に紹介する機会に遭遇すれば、避けて通れない問題なのです。万葉集に発した日本文学の美学は古今集に継承されさらに他の散文作品のエッセンスとともに源氏物語という「大湖」に流れ込みました。

しかし「源氏」を原文で通読することは並大抵のことではありません。登山に例えるとすれば、「源氏」は54の峰を有しそれぞれの峰は膨大な支脈や山群を擁し、さまざまな難所に満ちている、いわば日本古典の“ヒマラヤ”なのです。したがって全ての峰を踏破することはしばらく置いて、初めは登り易い峰から登り始めて、その高所から近くの峰々を眺めるだけにするのが理解の近道なのです。いわば跳び跳びに読んで行き、読み飛ばした峰は、訳文でいわば飛行機から眺めて理解するのが長続きする秘訣です。それでも全てを現代訳で読むより遥かな満足感が得られることでしょう。長くこれを続けると段々と音読が耳に残るようになって字面で読んでいて理解困難なものが聴覚的に理解できるようになるでしょう。聴覚的に慣れることは、関西方言に慣れた住民にとって有利な点で、例えばラジオの古典朗読などを聞くと一層ヒアリング能力が上達するでしょう。音読による速読術は仏文学でも言えるかも……。

(次の機会には「源氏物語の設計図は実に精密だった」を論じます) (なかうら)

## ◆お詫びと訂正◆

前号の工藤順子様への寄稿「ジュール・ルナアル作“にんじん”を読む」で脱落と重複のミスがありましたので誌上を借りてお詫びいたしますとともに主な該当部分の前後を含めて再掲いたします。

前号 p.5後半【第二段落より】

この作品は約50章の短い話から成る。最初の話「鶏」の一部を簡単に紹介してみよう。広い中庭のずっと奥のほうに鶏小屋の小さい屋根が暗闇の中に、戸の開いているところだけ黒く四角く区切っている。「フェリックスや、お前ちょっと行って閉めてくるかい」フェリックスは断る。「じゃ、お前は、エルネスチヌ?」「あら、母さん、あたしこわいわ」二人ともろくろく顔さえ上げないで返事をする。「そうそう、なんてあたしや馬鹿なんだろう」ルピック夫人は言う「すっかり忘れていた。にんじん、お前行って鶏小屋を閉めておいで」。テーブルの下で何もせずに遊んでいたにんじんは、立ちあがりおどおどしながら「だって母さん、僕だってこわいよ」。「なに?」「大きななりをして……。嘘だろう。さ、早く行くんですよ」とルピック夫人。姉と兄からおだてられて、にんじんは怯む心と闘う。危険はもう過ぎた。にんじんは両親の顔色の何処かに心配した跡が見えはせぬかと探している。ルピック夫人は落ち着き払った声で言う「にんじん、これから毎晩、お前が閉めに行きなさい」。我が子にんじんに徹頭徹尾つれなく相対せざるを得ない母親もまた哀れである。

つづいて「パンのかげら」の話の一部を紹介しよう。或る日ルピック夫人は大変な事をしてかした。慣例を破ってじかにルピック氏に言葉をかけたのだ。「パンのかげらをつつこっちへ頂戴。砂糖煮をたべちまうんだから……」ルピック氏は驚いて躊躇している。が自分の皿からパンのかげらをつまみ上げ、真面目に、無愛想にそれをルピック夫人めがけて抛ったのである。

奈良日仏協会 会員主催の各種講座

(2013年4月現在)

曜	時間帯	場所	講師	内容、教科書	問合わせ先
月	19:00~20:30 (4/15 から) <b>NEW!</b>	奈良フランス クラブ(藤原町)	オリヴィエ・ジャメ	新しい講座! フランス語入門 いろはから Communication 1 初級 A "Spirale" スピラル Hachette / Pearsons	clubfrancenara@kcn.jp 0742-62-2770(ジャメ)
火	12:30~14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	Conversation, expression, écrit et écoute / DAPF / Delf A2 仏検 "Echo 1" CLE International "A la page 2011" Edition Asahi	同上
火	17:00~18:30	同上	Ghazi Mahjoub	Initiation à la langue arabe (cours donné en français) Arabe Littéral 1 Klincksieck (A partir de la douzième leçon)	同上
火	19:00~20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語入門 Communication 1 初級 B "Spirale" スピラル Hachette / Pearsons	同上
水	12:30~14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	Echo B1 (CLE International) / Vidéo Cours préparation DAPF-DELFF	同上
木	12:30~14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Echo 2" CLE International / DAPF-DELFF	同上
木	19:00~20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Spirale" Hachette / Pearsons Communication 2 中級	同上
金	10:50~12:50	同上	オリヴィエ・ジャメ	"Echo 1" CLE International / Communication 3 DAPF-DELFF 会話、作 文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検読書	同上
土	毎月2回 13:30~15:30 (4/13, 27...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	Interprétation-Traduction 通訳翻訳講座 (Introduction aux techniques d'interprétation et de traduction)	同上
土	毎月1回 11:00~13:00 (4/13, 5/11, 6/8...)	同上	オリヴィエ・ジャメ 浅井直子	NEW! 「ジャメ先生と『虞美人草』を 読む」日仏2カ国語による比較文学・比 較文化・フランス語翻訳の講座	同上 0743-74-0371(浅井)
日	2ヶ月に1回 (4/14) 14:00~17:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス歌曲について	同上
日	毎月2回 10:15~12:15 (4/14, 21, 5/12, 26 6/16, 30...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取 り、仏検読書/DELFF	同上
日	毎月1回 14:00~16:00 (4, 28, 5/26, 6/30...)	奈良市 中部公民館	オリヴィエ・ジャメ	Séance de lecture et de discussion (Articles du Nouvel-Observateur...) 読書・討論会 (仏検、DELFF/DALF)	同上
金	毎月1回 金曜 10:00~11:30	奈良市 中部公民館	内田 茂	フランス語講読 Variétés françaises (朝日出版) (フランスの歴史・文化・社会を読む!)	080-1411-0056(内田) 0742-45-3710(森)
火	毎月第2・4火曜 10:30~12:00	富雄 カフェ・ミュゼット	梨里香	フランス語で歌うシャンソン	06-6922-6502 (中辻)
金	毎週第3・4金曜 13:00~14:40	奈良ウエルネス 倶楽部	仲井秀昭	基本的な挨拶や表現、シャンソンや映画 や料理やお菓子のフランス語	0120-194-902
水	毎月第2・4水曜 9:30~11:00	学園前 西部公民館	仲井秀昭	フランス語初級 まずは「ボンジュール」と 「ジュテーム」から (はじめて仏語を習う方も歓迎!)	070-5504-1881(仲井)
土	隔月1回 土曜 13:30~15:30 頃 次回(2013/4/20)	新大宮 カフェテラス・ サンフラワー	kayoko	カルトナーージュ 厚紙を組み立てて美しい布や紙を覆って作 るフランスの伝統的な手工芸 4/20(土)『初級作品の中から自由選択』 リポントレイ・BOOK型 Box・ティッシュ Box カトラリーケース・ペン立て・蝶つがい Box	090-7750-8570(中野)
土	隔月1回 土曜 13:30~15:30 頃 次回 5月予定	新大宮 カフェテラス・ サンフラワー	vert de gris 古川さやか	ブリザーブドフラワー アレンジ	090-7750-8570(中野)

◆112回 フランス・アラカルト

- 日時:5月16日(木)15時から
- 会費:会員千円、一般1500円(ケーキと紅茶付き)
- 場所:カフェ“Mardi Mardi”(マルディ・マルディ)  
奈良市登美ヶ丘3-12-9登美ヶ丘ビル1F (TEL&FAX :44-5701)  
学園前駅からバス:7分、西登美ヶ丘2バス停前 **P**有り  
サイト <http://mardimardi.exblog.jp/11477753/>

※参加申し込みなどは末尾の日仏協会事務局へ

講師:ショブロート スワジキさん(24)

当日は、フランス語でベルギーを紹介されます。流暢な日本語訳もご自分でして下さると同時に、パワーポイントを使って写真も見せて下さいます。素敵な女子留学生です。どうぞ楽しみにしてご参加ください。

ゲスト自己紹介文:

Je m'appelle Soizic Schoonbroodt, j'ai 24ans et je viens de Belgique.  
Je suis venue pour la première fois au Japon, à Uji, il y a 6ans grace au Club Rotary.  
Je suis maintenant ici en tant qu'étudiante d'échange à l'université des langues étrangères de Kyoto.  
Si tout se passe bien, j'aimerais devenir interprète.

会員の店紹介

野菜ダイニング「菜宴」

野菜1日350g目標! 昼も夜もカラダがよろこぶ  
2011年7月に開店して以来、当店では可能な限り奈良県産の野菜を使って、成人に必要な野菜を十分摂取していただけるメニューをご用意しています。場所は近鉄奈良駅のすぐ近くで、2次会・女子会・同窓会・各種宴会などにも、幅広くご利用いただけます。気軽に足を運んでみてください!

【営業時間】 (シェフ・久保田耕基)

- 昼 11:00 ~ 14:30 (ラストオーダー)
- 夜 17:00 ~ 21:30 (食べ物のラストオーダー)
- 22:00 (飲物のラストオーダー)

【住所】奈良市小西町19 マリアテラスビル2階(小西さくら通り商店街 文具店の南側の階段を上る)

【電話】0742-26-0835 【定休日】不定休

奈良日仏アラカルト今昔(2)

▼《Mon Nara》の名称、何年かたって奈良日仏協会を立ち上げたときもそのまま継続しました。

一方消えてしまったのは POT-POURRI=ポプリです。エキスポゼをまとめたものですが、一枚一枚須田さんとコピーしたのが懐かしいです。それが写真入りで読売新聞で取り上げられたのがわれわれのマスコミ・デビュー。4号まで出ましたか? 去年の理事会で南城守さんが復活させようと言っていましたね。

▼「アラカルト」と言えば、「フランス・アラカルト」。ずいぶん長く続けました、前副会長の児玉厚雄さんがフランス文化についてのレクチャーとシャンソンの紹介とコンサートを定期的にしなにかとおっしゃったので、会場としてご紹介頂いたトヨタカローラ富雄で毎月催すようになりました。最初は「フランスあれこれ」とか言ってましたが、当時理事をしていた字幕翻訳家の橋本克己さんが「フランス・アラカルト」は? って。(仲井 記)

事務局から

- ◆m(-\_-)m 前号関係お詫び記事6ページに掲載。  
\*\*\*\*\*
  - ◆当協会では**会員を募集**しております。今年から法人会員の年会費が大幅に値下げされ自営業の方等の入会が容易になりました。本誌では会員関連の記事や店情報を掲載いたします。
  - ◆本誌への投稿[特に新鮮で多様な話題など]を歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。
- 締切日:次号は **5月末日**が締切日です。



菜宴での協会理事会

Mon Nara Mars - Avril 2013 **3 - 4月**合併号 Numéro255  
奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara  
HP: <http://www.afjn.jp> E-mail: [afjn\\_info@ken.jp](mailto:afjn_info@ken.jp) TEL&FAX 0743-52-3939  
〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第30号[郵便物のみ] 発行責任者: 坂本成彦